

4.

将来の進路と 学生時代に 身につけるべき 能力について

卒業後の進路

卒業後は民間企業に勤めたい

将来の進路の第1位が「民間企業」 **37.2%**

「大学院・研究所・シンクタンク」 **19.1%**

「公務員」 **7.1%**

進路に向けての準備

将来に向けて学問・研究に励むことが大事

「学問・研究に励む」 **27.8%**

「語学短期留学・語学取得」 **12.4%**

「特に準備はしていない」 **12.2%**

進路の相談

進路についての相談は友人か家族

進路の相談相手はまず「友人」 **34.2%**
男性は「先輩」、女性は「家族」の傾向あり

進路に必要な能力

自分に必要とされる能力は

専門知識と語学力とコミュニケーション能力

「学術的な専門知識」 **19.6%**

「語学」 **17.5%**

「コミュニケーション能力」 **16.4%**

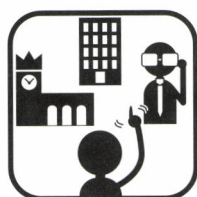
進路のために希望するサービス

専門教育と語学教育の充実を期待

「専門教育の充実」 **20.1%**

「語学教育の充実」 **15.9%**

「資格取得支援」 **12.3%**



卒業後の進路

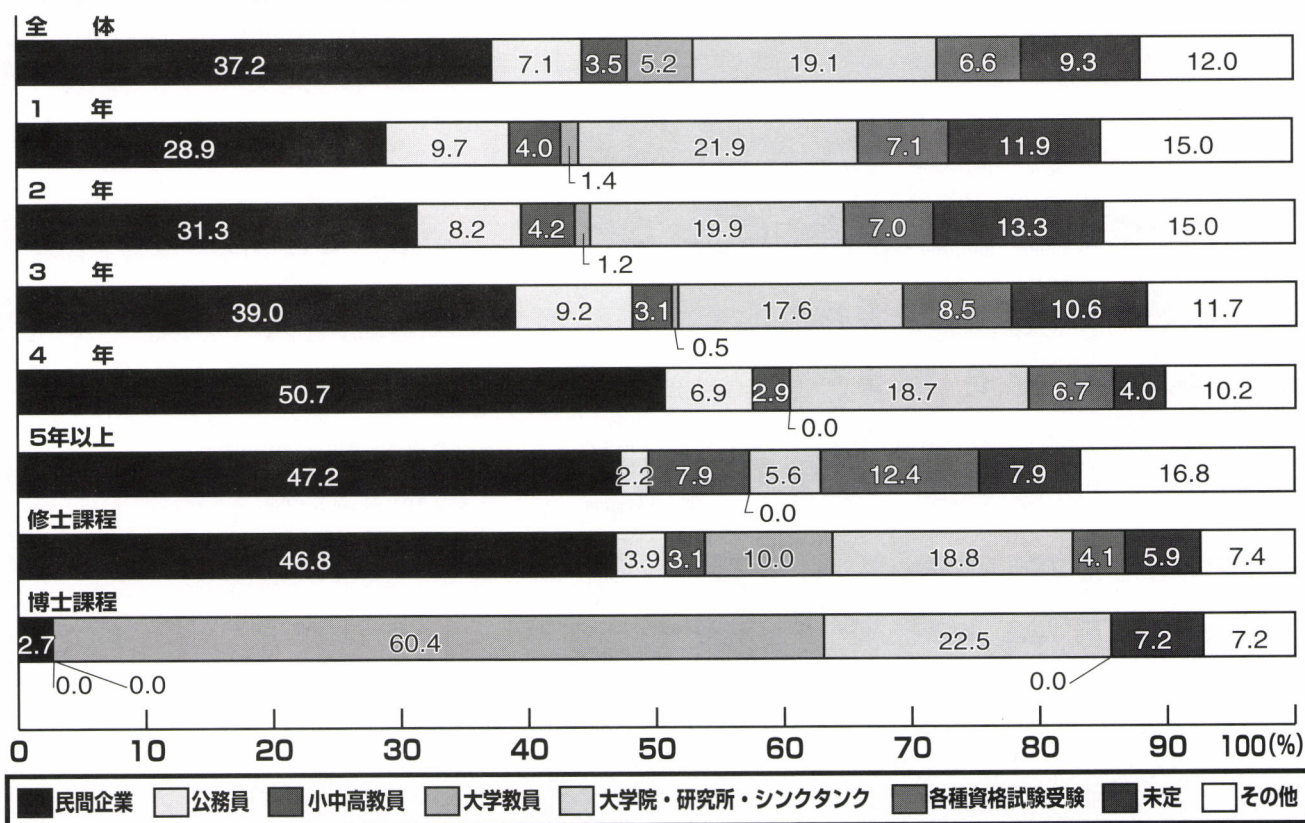
1. 卒業後は民間企業に勤めたい

POINT 将来の進路の第1位が「民間企業」**37.2%**
「大学院・研究所・シンクタンク」**19.1%**、「公務員」**7.1%**

高学年になるにつれ、「民間企業」志望者が増加し、4年生では半数に達しています。3、4年と就職が現実味を帯びてくるにつれ、進路が「未定」の人の割合は減少し、「民間企業」志望者が相対的に増加しています。5年生以上では、「小中高教員」、「各種資格試験受験」志望者の割合

が高く、これら資格を取るために卒業を遅らせていることが見てとれます。博士課程では60.4%が「大学教員」を希望し、「民間企業」志望者はほとんどいません。博士課程まで進学した学生を、日本企業では敬遠する傾向がまだ強いことを反映していると考えられます。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？（学年別）



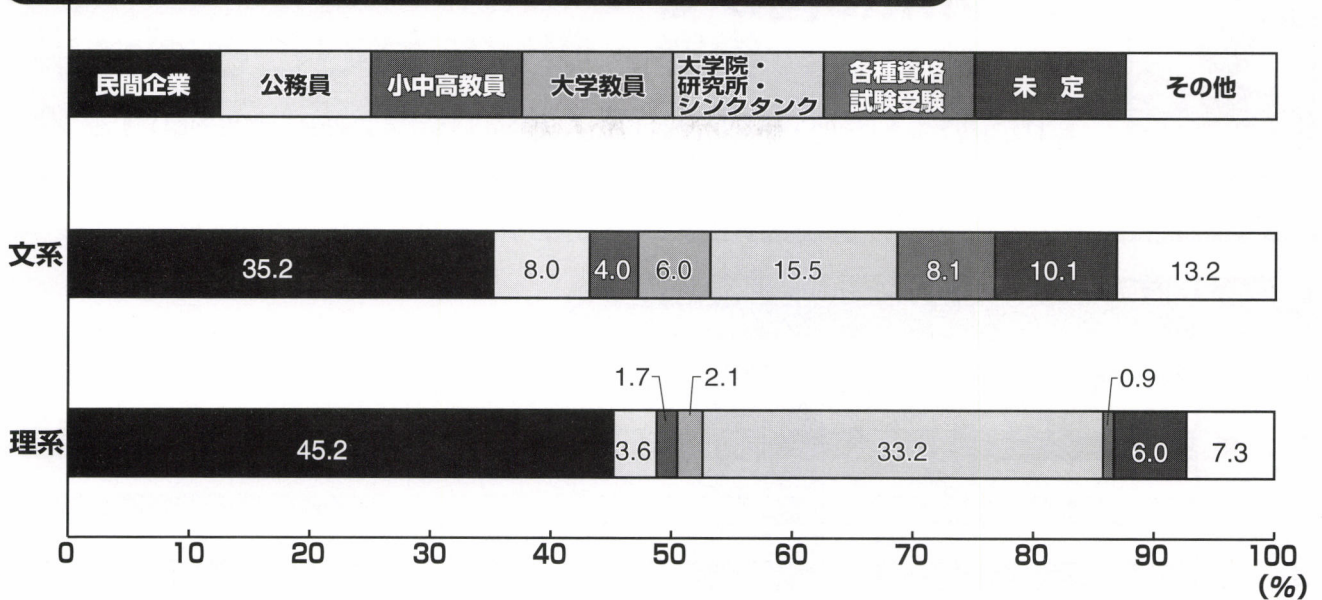
回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

文系・理系別では、理系は「民間企業」、「大学院・研究所・シンクタンク」志望者の比率が文系より高くなっています。特に「大学院・研究所・シンクタンク」志望者は文系の倍の割合です。理系の学部卒業生のかなりの割合が大学院に進学する事情を反映しています。「公務員」、「小中高教員」、「資格試験受験」は文系の方が高

くなっています。

その割合は少ないのですが、社会人学生は「大学院・研究所・シンクタンク」と「専門学校進学」志望者の割合が「一般学生」と比べると圧倒的に高く、明確な目的意識を持っていることがうかがえます。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？（文系・理系別）



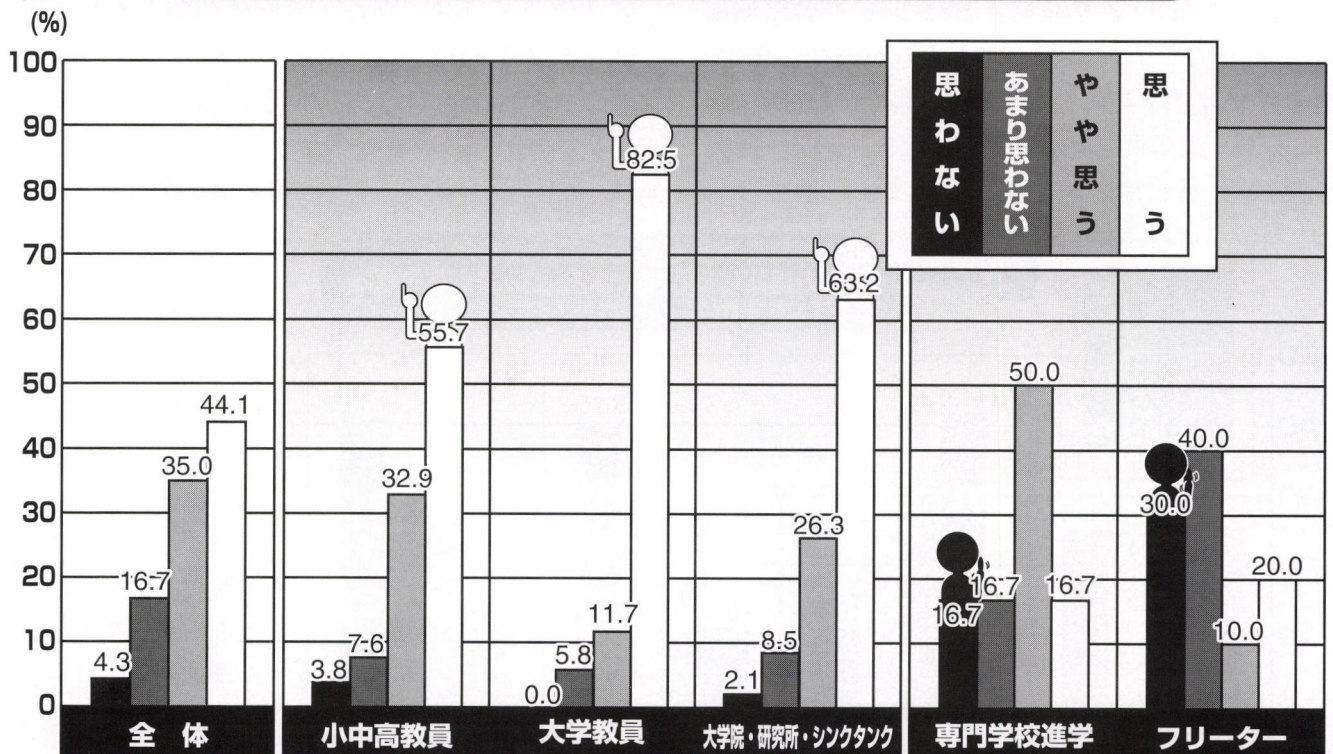
回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

卒業後の進路の志望と授業に対する興味との関連では、「大学教員」、「大学院・研究所・シンクタンク」志望者は授業に対して非常に高い関心を持っています。これに対して、「その他」の中の「専門学校進学」、「フリーター」を考えている人は授業に対して興味が低く、対照的でした。

また、卒業後の進路の志望と「大学での授業や研究・勉強は将来何らかの役に立つと思うか」との関連では、「小中高教員」「大学教員」、「大学院・研究所・シンクタンク」志望者は役に立つと多くの人が思っているのに対して、「専門学校進学」、「フリーター」を考えている人は役に立つと思わないとする割合が高くなっています。

一部抜粋

大学での授業や研究・勉強は将来自分の進路先で何らかの役に立つと思いますか？
／学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？



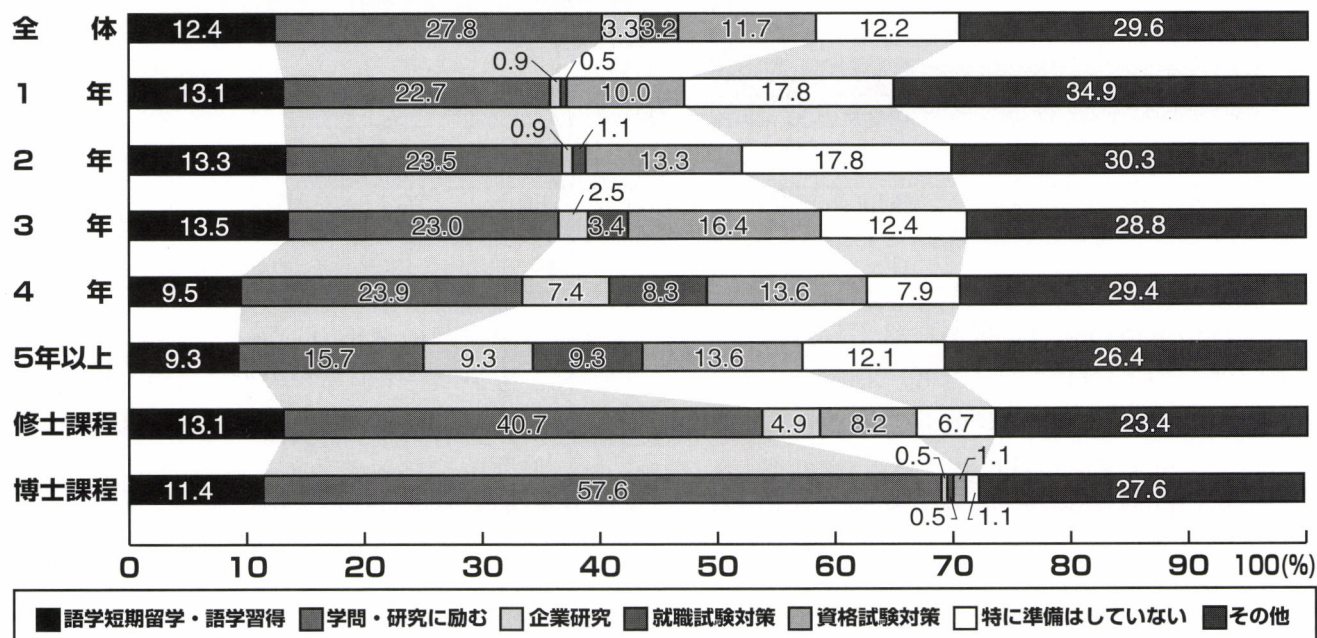


進路に向けての準備

2. 将来に向けて 学問・研究に励むことが大事

POINT → 「学問・研究に励む」**27.8%**、「語学短期留学・語学習得」**12.4%**
「特に準備はしていない」**12.2%**

将来の進路に向けて、現在どのような準備をしていますか？
(学年別) (複数選択可)



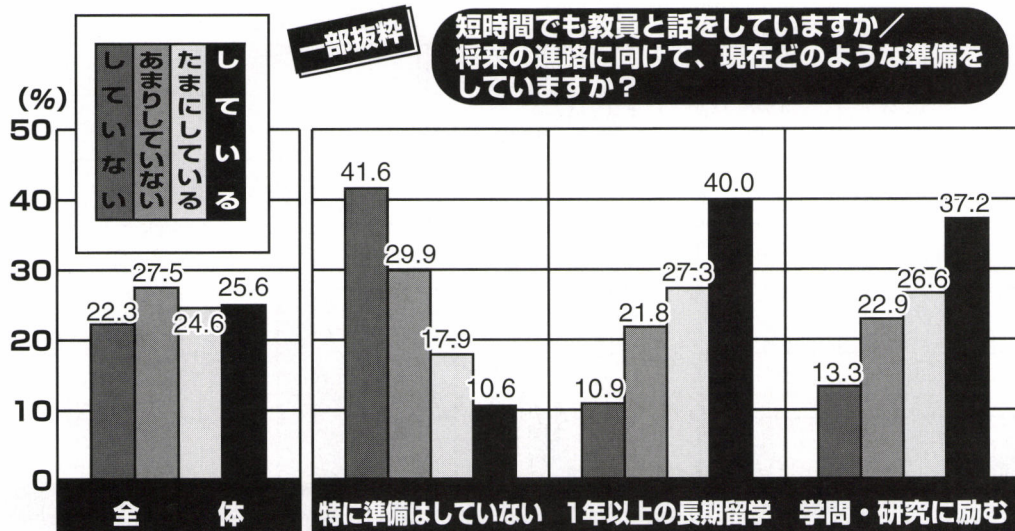
回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

学年別では、高学年になるにつれ、「特に準備はしていない」人の割合はいくらか減少します。4年生では「企業研究」、「就職試験対策」が増加します。大学院学生は準備として「学問・研究に励む」が非常に高くなっています。準備とし

て「学問・研究に励む」の全体の割合が高いのは、大学院学生における割合が影響しています。

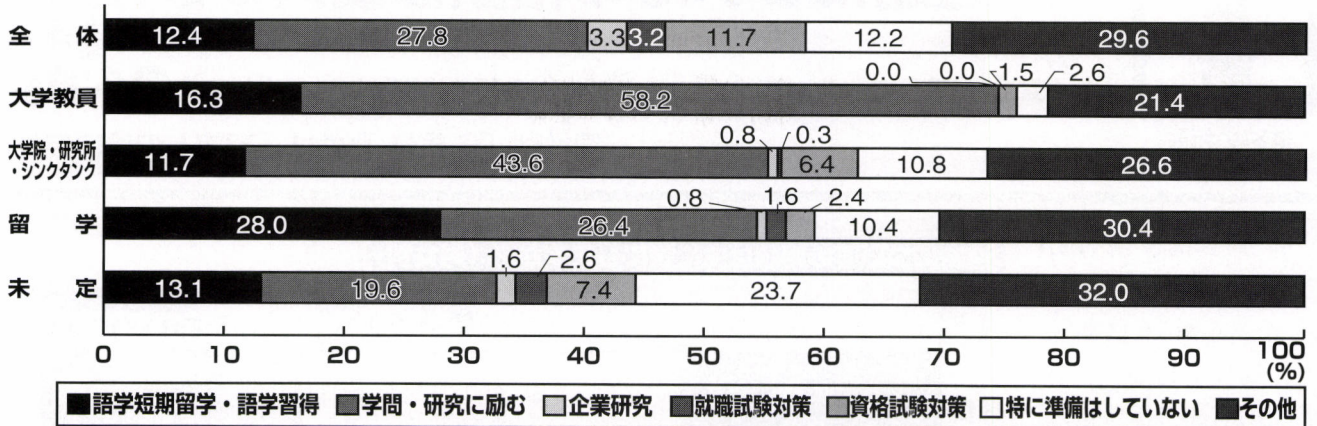
文系・理系別では、「学問研究に励む」の割合は理系の方が文系よりも高くなっています。理系では「学問研究に励む」ことが将来の進路に向けての

直接準備となる可能性が高いのに対して、文系では理系ほどには直結しないと思うことから来るようです。そのことが「語学短期留学・語学習得」や「資格試験対策」など目に見える結果を文系学生が求めることにも表れています。



一部抜粋

将来の進路に向けて、現在どのような準備をしていますか？
／学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？



回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

卒業後の進路の志望と準備の関連については、「大学教員」、「大学院・研究所・シンクタンク」を進路として考えている人は、準備として「学問・研究に励む」が最も高くなっています。「留学」を希望する人は「語学短期留学・語学習得」が最も高くなっています。これに対して、進路が「フリーター」、「未定」の人は準備をしていないと答える割合が高くなっています。

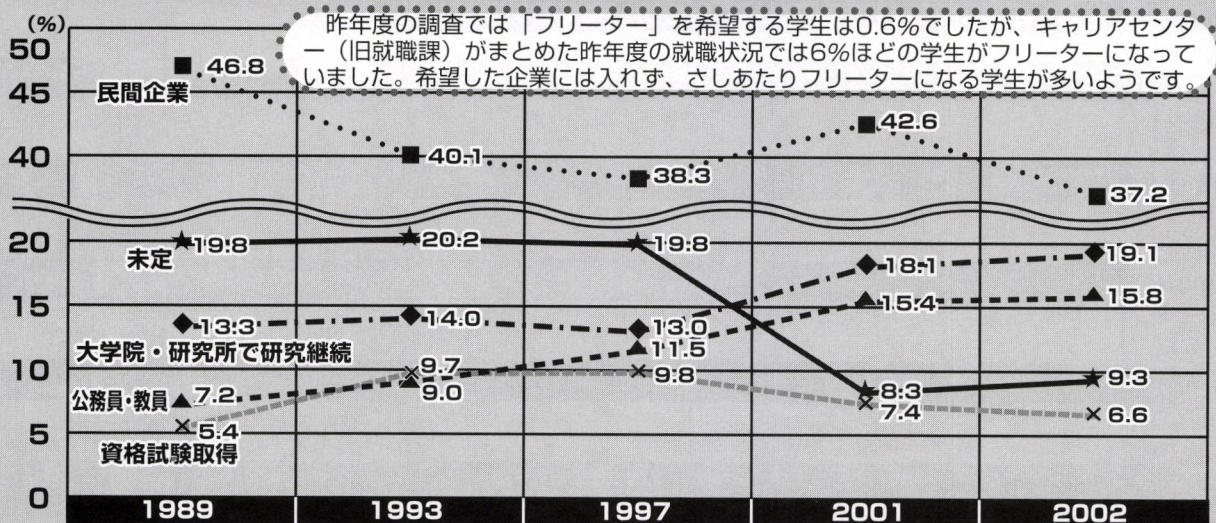
進路に向けての準備として「学問・研究に励む」、「1年以上の長期留学」と答えた人は教員と話をしてアドバイスを受ける割合が高く、積極的に教員を活用していると言えるでしょう。「特に準備はしていない」派は、教員と話をすることがないとする割合が非常に高いのと比べると対照的です（前項下グラフ）。

コラム

就職活動の時期が早まってきたことや、入学時からキャリアプランを考えて行動する学生が増えてきた影響で、近年、希望する進路が「未定」な学生は減少しています。1989年

度にはダントツで1位だった「民間企業」が下がる一方、「公務員・教員」、「大学院・研究所での研究継続」が増えるなど、進路の多様化が見て取れます。

学部・研究科卒業後の進路はどのようにしたいと考えていますか？（経年変化）



経年変化を見るために各年度の質問項目の選択肢をまとめ、数値の多い選択肢のみを掲載しています。（年度）
1997年度の調査は、「学部学生」、「大学院学生」、「留学生」と対象者を分け、それぞれに別の質問項目で調査しているため、ここでは「学部学生」の数値を掲載しています。



3. 進路についての相談は友人か家族

POINT → 進路の相談相手はまず「友人」**34.2%**
男性は「先輩」、女性は「家族」の傾向あり

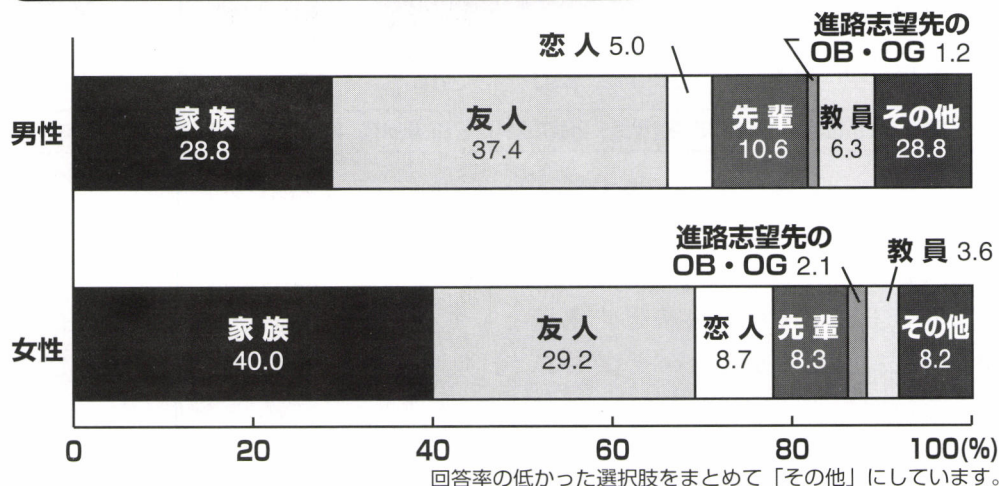
性別では、男性が「家族」より「友人」の方が多いのに対して、女性では逆に「家族」の方が「友人」よりも多くなっています。相談相手としての「恋人」と「先輩」では、男性が「先輩」が多いのに対して、女性は「恋人」の方がやや多いとの、違いが見られます。

学年別では高学年になるにつれ、相談相手は「家族」から「友人」へと変化していきます。博士課程の学生では、教員との結び付きが強いために、相談相手として「教員」が最も多くなります。

「公務員」、「小中高教員」を志望している人はともに「家族」に相談する割合が最も高くなっていますが、「公務員」志望者は多くが「友人」と

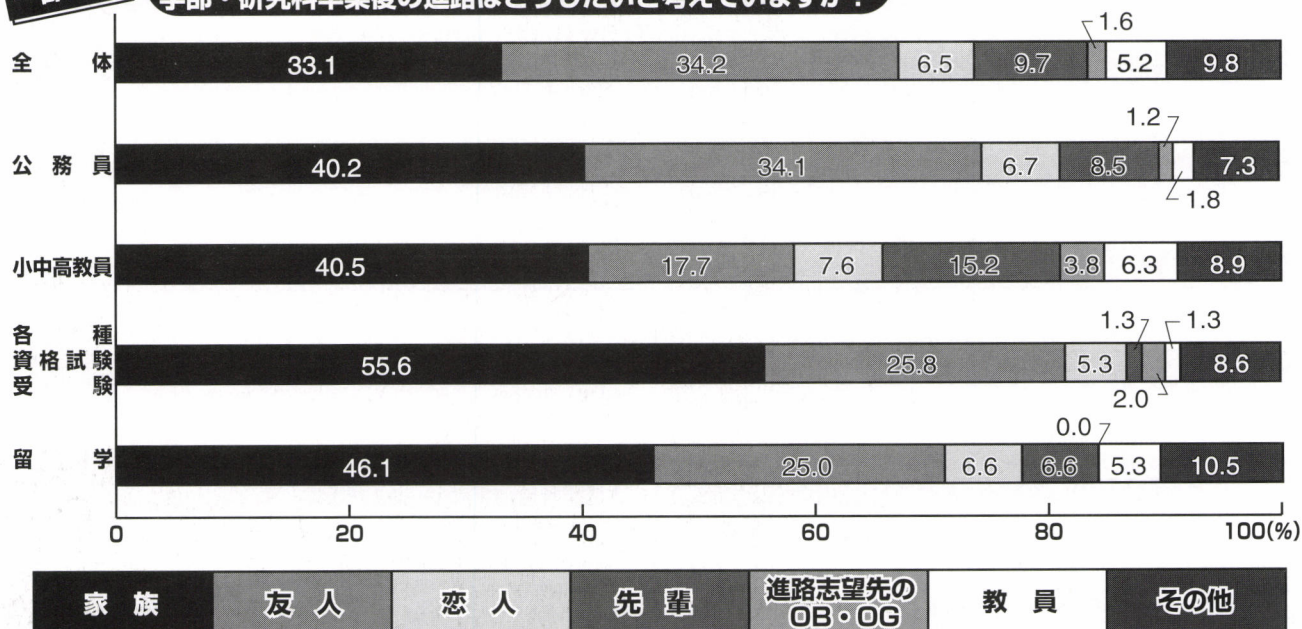
も相談するのに対して、「小中高教員」志望者では「友人」に相談する割合は約半分です。「各種資格試験受験」、「留学」志望者は共に「家族」に相談する割合が他の志望者に比べると非常に高くなっています。これは共に費用がかかることなどから親の理解が必要なことを反映しているようです。

進路についての相談は主に誰にしますか？（男女別）



一部抜粋

進路についての相談はおもに誰にしますか？／学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？





進路に必要な能力

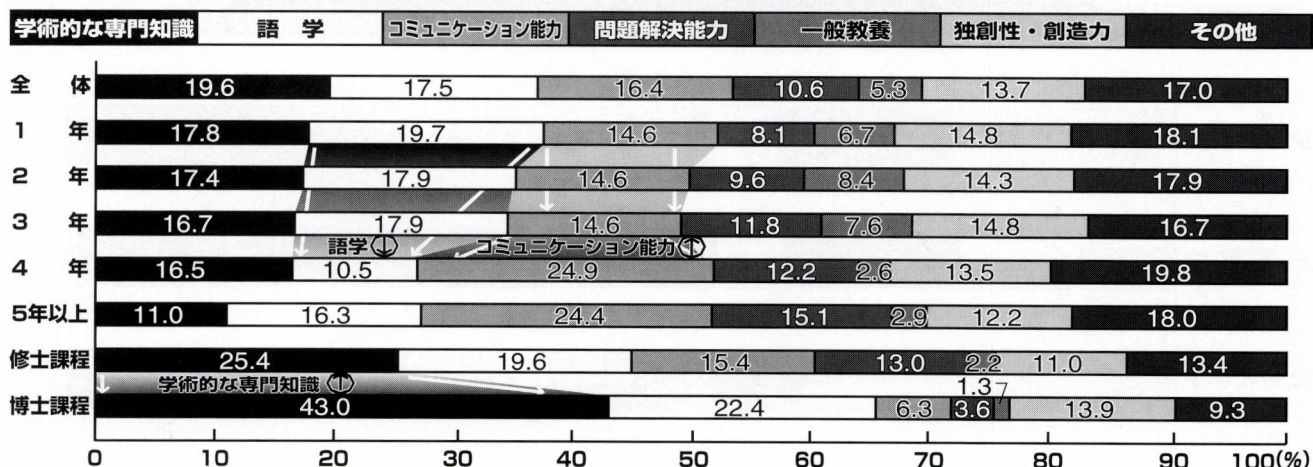
4. 自分に必要とされる能力は 専門知識と語学力とコミュニケーション能力

POINT → 「学術的な専門知識」 **19.6%**、「語学」 **17.5%**
「コミュニケーション能力」 **16.4%**

学年別に見れば、「学術的な専門知識」の割合は、学部学生では学年による差はほとんどありません。大学院学生では、当然のことながら、

「学術的な専門知識」が必要な能力であるとの回答は大きく増え、とりわけ博士課程では43.0%を占めています。

将来、自分の進路のために必要とされる能力はなんですか？（学年別）（複数選択可）



回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

「語学」は学年が上がるにつれ減少しますが、大学院学生では、専門書、論文などを読むことから「語学」の必要性は高まります。

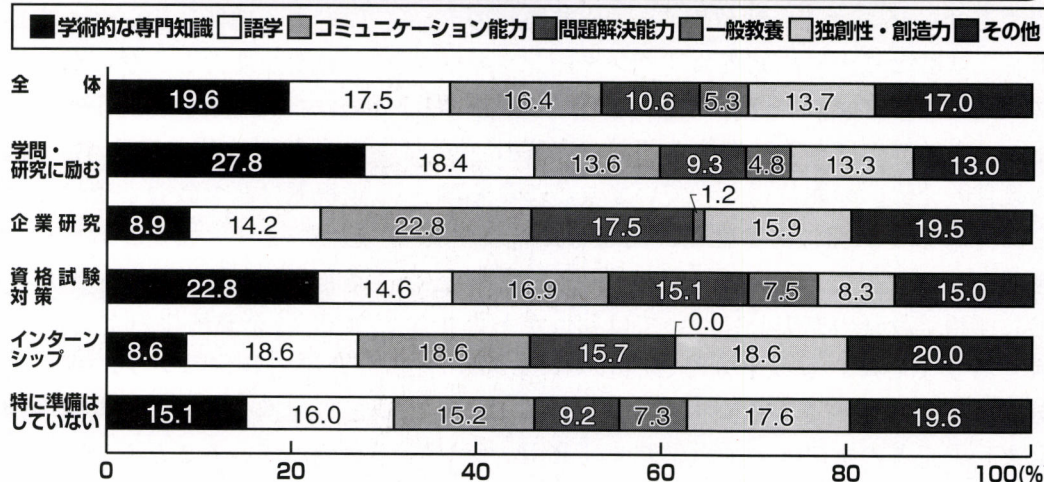
「コミュニケーション能力」は4年生になると急激に増加しています。次頁の「進路のために希望

するサービス」のところで触れますが、就職活動と密接に関連します。

視、これは「資格試験対策」派にも共通します。「特に準備していない」派は「学術的な専門知識」、「語学」の必要性も低くなっています。「問題解決能力」を重視するのは準備としての「企業研究」、「インターンシップ」、「資格試験対策」派です。

一部抜粋

将来、自分の進路のために必要とされる能力はなんですか？ ／将来の進路に向けて、現在どのような準備をしていますか？（複数選択可）



回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

必要とされる能力と前述した「将来に向けての準備」との関連を見てみましょう。準備として「学問・研究に励む」派は「学術的な専門知識」の必要性を重



進路のために
希望するサービス

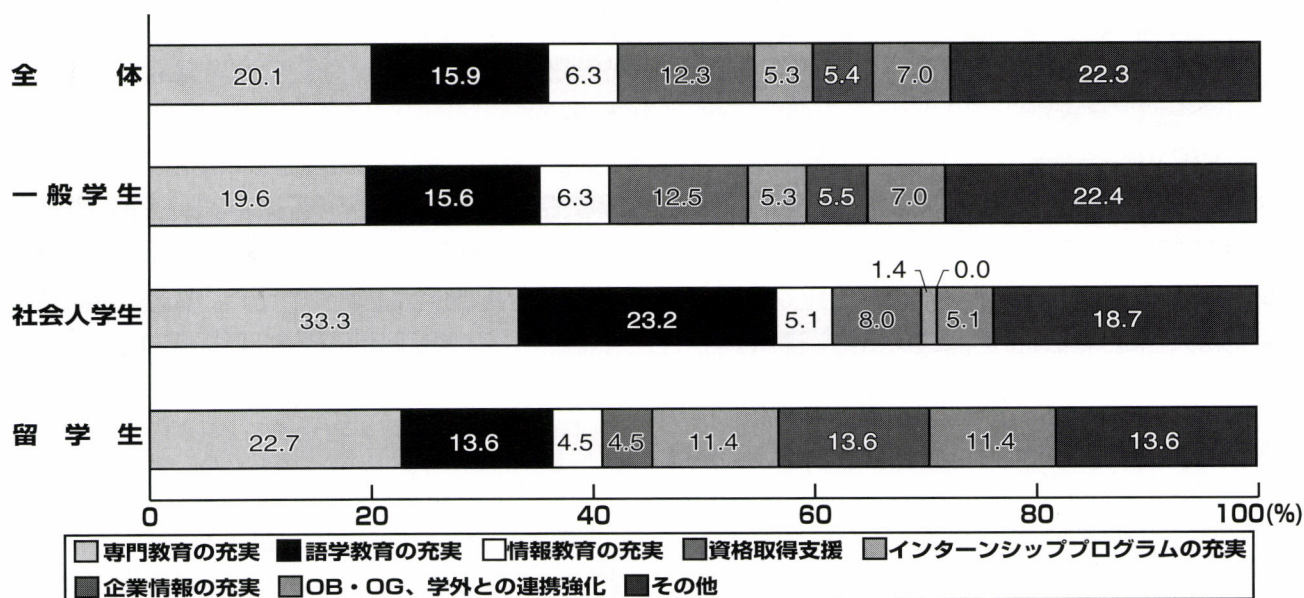
5. 専門教育と語学教育の充実を期待

POINT → 「専門教育の充実」 **20.1%**、「語学教育の充実」 **15.9%**
「資格取得支援」 **12.3%**

全体としては上記の順位ですが、とりわけ社会人学生は大学に対してきわめて明確な期待・要望を持っています。「専門教育の充実」と「語学教育の充実」に期待する割合が特に高くなっ

ています。また、「資格取得支援」に対する期待にも高いものがあります。留学生では、「企業情報の充実」と「OB・OG、学外との連携強化」に対する期待が高くなっています。

自分の進路のために大学に期待するサービスはなんですか？（学生種類別）（複数選択可）



回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

卒業後の進路と大学に期待するサービスとの関連では、約4割を占める「民間企業」志望者が期待するサービスは高い順位から、「企業情報の充実」、「就職セミナーの充実」、「インターンシッププログラムの充実」、「OB・OG、学外との連携強化」、「キャリアプランに関する相談の充実」、「情報教育の充実」の順位になっています。これらはどれも厳しい状況にある就職に関連しています。無理からぬことではありますが、「専門教育の充実」、「語学教育の充実」については期待があまり強くありません。もう十分だと感じているのか、あるいはあまり関心がないのでしょうか。「民間企業」志望者の次に多い「大学院・研究所・シンクタンク」志望者では、「専門教育の充実」、「語

学教育の充実」、「リベラルアーツの充実」に対する期待が高くなっています。志望先によって大学に対する期待に違いがあることが分かります。

必要な能力と大学に期待するサービスとの関連では、「学問的な専門知識」重視派は専門教育の充実を期待しています。これに対して、「語学」重視派は語学教育と留学プログラムの充実を期待しています。また、「コミュニケーション能力」を重視する人は、「キャリアプランに関する相談の充実」、「企業情報の充実」、「就職セミナーの充実」、「自己発見プログラムの充実」、「OB・OG、学外との連携強化」など就職活動に関連したサービスを望んでいることが分かりました。